

平成 20 年度 第 1 回入学試験

- ◆ 以下に示す A、B の二つの課題に答えなさい。論述の順は問わないが、〔課題 A〕〔課題 B〕と明記して論述すること。論述の分量は、両面の範囲内に収めること。

【A】いじめと不登校との因果関係が指摘されている。この問題について、あなたの考えを示すとともに、どのような対策が考えられるか具体的に述べなさい。

【B】「言葉の力」の育成は国語科だけではなく各教科で、という動きがある。このことについて、あなたの考えを示すとともに、具体的にどのような方策が考えられるか述べなさい。

平成 20 年度 第 2 回入学試験

- ◆ 以下に示す A、B の二つの課題に答えなさい。別紙解答用紙の表面に【課題 A】、裏面に【課題 B】を論述すること。

【A】改正学校教育法の「第四章 小学校」に新設された以下の条文の一部を読んで、これからの学校教育、とりわけ、小学校教育に求められていることについて、あなたの考えを述べなさい。条文の中のキーワードを指摘しながら論述するのが望ましい。

第三十条

② 前項の場合においては（*小学校における教育の具体的な目標を示し、その達成を促している－作問者注）、生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、基礎的な知識及び技能を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくみ、主体的に学習に取り組む態度を養うことに、特に意を用いなければならない。

【B】近年、PISA 調査への関心が高まっている。以下に記したのは、過去三度の PISA 調査での日本の国際順位と、そのことを報道した朝日新聞（2007 年 12 月 5 日）の記事である。これらのことを踏まえ、【A】の課題とも関連づけながら、今後どのような取り組みが必要なのか、あなたなりの考えを述べなさい。

分野	2000 年(32 カ国)	2003 年(41 カ国・地域)	2006 年(57 カ国・地域)
科学的リテラシー	2 位	2 位	6 位
数学的リテラシー	1 位	6 位	10 位
読解力	8 位	14 位	15 位

経済協力開発機構（OECD）による 3 回目の国際学習到達度調査（PISA）の結果が 4 日（2007 年 12 月 4 日－作問者注）、公表された。科学的リテラシー（応用力）と数学的リテラシーの 2 分野で順位を四つ、読解力でも一つ下げた。全般的に見て、成績の低落傾向にまだ歯止めはかかっていない。成績上位国と比べ、理解度が低い層が目立ち、学習に対する意欲や関心は最低レベルといった課題も見えてくる。